

■ 刊行にあたって

歯科医療と抗加齢・健康増進との橋渡しを目指して

いま、未曾有の少子高齢化を迎え、経済基盤や医療構造の変革が求められています。う蝕や歯周病を対象とした従来の「口腔局所完結型」の予防歯科もまた、口腔の健康づくりを全身の健康増進や健康寿命延伸といった総合的な目標に繋げるべく、変革する時が来ています。

2011年に発刊された『歯科発ヘルシーライフ プロモーション』は、歯科の担う領域が、健康増進、抗加齢、生活習慣病などと如何に関係しているかを、さまざまな分野にわたり科学的に掘り下げ、具体的に綴ったものです。同書は、いかなる分野にも属さないたいへんニッチな領域の本であり、歯科医療人に限らず広く多職種の方々にも、質の高い情報源として活用いただき、すでに第2版の刊行に至っております。初版から6年が経過し、歯科と健康増進の分野はダイナミックに変革し続け、もはや「ニッチな領域」ではなくなりつつあります。

私たちは、病気と未病の概念や生活習慣病（NCDs）を予防するための歯科的事象、オーラルフレイルからフレイル予防など聞き慣れない言葉を理解して臨床に活かさなければなりません。

2025年を目途として、地域包括ケアシステムの構築が推進されている現在、要介護度を上げないためにNCDs（生活習慣病）を予防し、虚弱老人を減らし、より早期からのフレイル予防に対応することが強く求められているのです。

時を同じくして、日本歯科医学会、日本歯科医師会が、オーラルフレイルに着目して「口腔機能低下症」を新病名として発表しています。有病者歯科や周術期管理の需要増加に伴い、歯科・医科の医療連携も本腰を入れて推進しなければ、医療の進展は望めません。

こうした背景から、この度『歯科発 アクティブライフ プロモーション 21 健康増進からフレイル予防まで』を刊行する運びとなりました。本書では歯科からはじまる健康増進、健康維持、未病の予防、そしてNCDs予防までの、医療連携を含む学際的領域を扱う（重度フレイルである摂食嚥下障害と要介護状態の内容を除く）構成となっています。

本書には各分野の一流の研究者・臨床家の知見、第一線で活躍する専門家の惜しめない努力による成果が盛り込まれており、まさに時代の要請と寸分違わぬ素晴らしい内容となりました。

近年、医療人の中で健康増進の分野に関心が集まり続けている理由は、この分野が大きな「やりがい」と高い自由度をもつ、新しいイノベーション型医療サービスの創造に繋がっているからではないでしょうか。

少子高齢化というと、それを憂う声ばかりが聞こえてきます。しかし、戦前にみる「多産多死社会」こそ不幸であり、「少産長生き社会」は、前向きに捉えれば、消費資源を存分に活用できる人類の理想郷といえる到達目標なのです。未曾有の少子高齢化社会を理想郷に近づけるべく、本書の存在意義と使命はいままさに、時代とともに高まっています。